



2020 年度 福知山公立大学

北近畿地域連携機構

年次報告書

北近畿地域連携機構長あいさつ

北近畿地域連携機構長（兼福知山公立大学副学長）
矢口 芳生



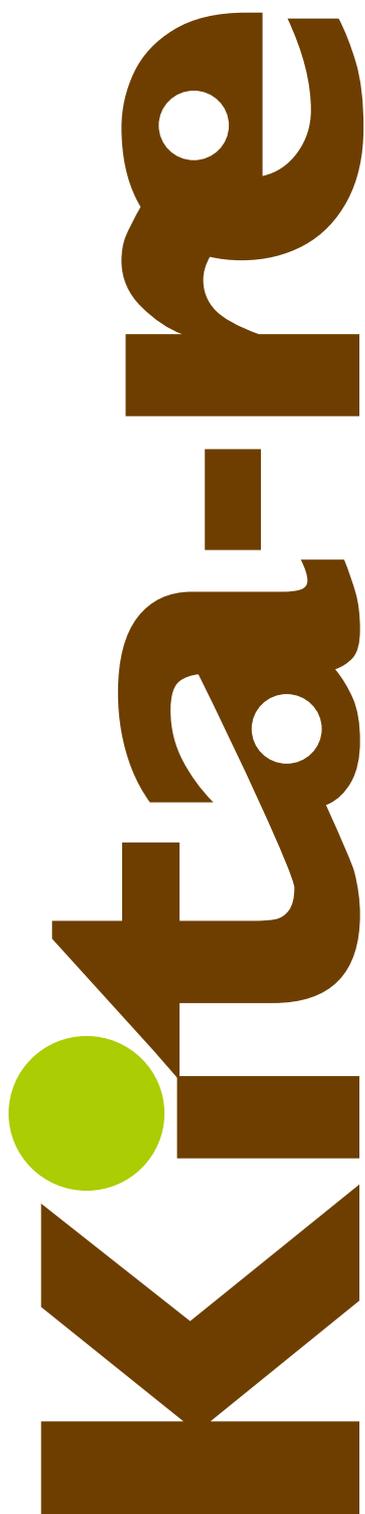
これまでの北近畿地域連携センター、市民学習・キャリア支援センター、そしてまちかどキャンパスを、2020年度から北近畿地域連携機構（愛称はこれまでどおり Kita-re）に統合し、このもとに研究部、市民学習部、まちかどキャンパス部を設置しました。これにより、「市民の大学、地域のための大学、世界とともに歩む大学」として、地域貢献事業、地域協働のさらなる強化・拡充を図ります。

第一に、研究部を設け、北近畿地域の企業や行政機関、その他の各種団体との共同研究等を本格的に行います。これには、各種の受託事業や調査研究、産学連携による新商品・製品の開発、産学連携に関わる本学による戦略立案や推進等が含まれます。

第二に、市民学習部、まちかどキャンパス部を設置し、広く市民に開かれた「市民の大学」としての地域連携拠点の役割を果たします。これには、市民講演会・学習会、資格取得に関する講座等の開催をはじめ、小中高大連携、福知山市民と学生との連携等が含まれます。

第三に、地域連携における文理連携の充実を図り、地域に根ざし地域に貢献する拠点を目指します。2020年度に情報学部が開設され、その知見も活かしながら、「地域のための大学」の拠点として体制を強化します。

北近畿地域連携機構は、地域連携拠点としてこれまで以上に北近畿地域の発展に寄与できるように努めます。地域の皆さま方も、ぜひご利用・ご活用ください。



目次

研究部

1. 新産業創出イノベーション交流会 …………… 1
2. 制御テクニカルプラットフォーム研究会 …………… 3
3. 地域研究プロジェクト …………… 5
4. 福知山企業交流会 …………… 7
5. 研究費獲得実績 …………… 13

市民学習部

6. 北近畿創生フューチャーセッション …………… 19
7. 福知山市若者まちづくり未来ラボ事業 …………… 21
8. 分野別公開講座 …………… 23
9. 高大連携研究会 …………… 27
10. 地域研究協働型ゼミナール事業 …………… 29
11. 子ども・若者学び支援事業 …………… 31
12. 井口学長塾 …………… 33
13. 田舎力甲子園 …………… 35

まちかどキャンパス部

14. まちかどギャラリー事業 …………… 37
15. まちライブラリー事業 …………… 39
16. まちびとゼミ事業 …………… 41

■研究部

新産業創出イノベーション交流会

■担当教員 加藤好雄（福知山公立大学地域経営学部 准教授）

■日時 2020年12月4日（金）14：00～16：00

■会場 北部産業創造センター2階多目的ホール

〔概要・趣旨〕

中丹地域には多くのものづくり企業が集積するとともに、「福知山公立大学」、「京都工芸繊維大学」、「舞鶴工業高等専門学校」、「ポリテクカレッジ京都」等高度な知見を有する高等教育機関が存在します。さらに、「北部産業創造センター」が設置されるなど、ものづくり企業の成長支援、共同研究開発の推進、新産業の創出を行う体制が整いつつあります。

この状況を活かし、高等教育機関や企業が有しているシーズが結びつくことによって、新たな付加価値が創造される場（イノベーション創出の場）を構築する新産業創出することを目的として京都府中丹広域振興局の主催により「新産業創出イノベーション交流会」が開催されました。

本交流会において、本学地域経営学部の加藤好雄准教授が講演者として登壇しましたので、講演の様子を紹介します。

〔詳細内容〕

中丹地域におけるイノベーションの創出

目まぐるしい技術革新や突発的な支援災害、コロナ禍等、想定外の出来事が次々と起こる昨今、社会のニーズの多様化がますます広がっています。

この時代においても企業が成長し、生き抜くためには「社会のニーズに応えるスピード感のある新たな価値創造」（イノベーション）が不可欠となっています。

京都府中丹広域振興局では、中丹地域における新商品開発、性能の向上、新しい生産プロセス等の創造が促進されていくことを目指し、地域の高等教育機関や企業が有している「技術」「ノウハウ」「アイデア」等のシーズをオープンイノベーション手法において交流させ、繋げる場を構築することを目的として「産業創出イノベーション交流事業」に取り組まれています。

本事業において、イノベーションの創造に有効とされるオープンイノベーションの場を構築し、様々な企業や教育研究機関等の交流を通じた思わぬ出会いによる新たな価値創造（新商品開発、生産性向上等）のきっかけづくりを目的として、2020年12月4日（金）に北部産業創造センターにおいて新産業創出イノベーション交流会が開催されました。

本交流会において、本学地域経営学部の加藤好雄准教授が講演者として登壇しましたので、講演の内容を紹介します。

交流会の主な講演内容 (2020年12月4日)

論題 「VUCA 時代におけるイノベーションという処方箋」 [福知山公立大学 准教授 加藤好雄]

ー講演内容の一部掲載ー

アジェンダ

- 1 VUCA時代の意思決定プロセス
- 2 イノベーションの本質
- 3 イノベーションの必要性
- 4 ビジネスモデルの変化が加速する
- 5 新たな事業の創出・展開

VUCAとは

V : Volatility (変動性)
U : Uncertainty (不確実性)
C : Complexity (複雑性)
A : Ambiguity (曖昧性)

→ VUCA時代では、先の未来は誰にも予測できない

エフェクチュエーション：市場創造の実行理論

4つの原則と1つの世界観

- ①「手中の鳥」の原則(Birds in Hand) 新しい方法を発見するのではなく、手持ちの手段で成功を掴む。
- ②「許容可能な損失」の原則(Affordable Loss) どこまで損失を許容するか、あらかじめコストを定める。
- ③「クレージー・ネット」の原則(Crazy-Quilt) コントロールする意思を持つすべての関係者と交渉していく。
- ④「レモネード」の原則(Lemonade) 悪いレモンが手に入らなればレモン汁にする。
- ⑤世界観「飛行機の中のパイロット」の原則 (Pilot-in-the-plane) 嵐の突如対応を心がける。

PDCAサイクルとOODAループの違い

	PDCA サイクル	OODA ループ
変化の対象	本人	人 (は事件(イベント))
目的	品質管理・改善	行動実行
サイクル	決まる	ない
予測可能性	想定外のことが起きない	想定外のことが起きる (は常態)
コントロール	厳密 (ガバナンス)	自律分散 (オペレーション)

OODA LOOP (クーダループ) の意思決定プロセス

PDCAサイクルの流れ

01 計画 (計画を立てる) → 02 行動 (計画を実行する) → 03 評価 (行動を評価する) → 04 改善 (改善して次に活かす) → 01 計画

※ 実行前にしっかり計画を立てて、行動する。

OODA LOOP (クーダループ) の意思決定プロセス

※ 観察や計画に時間がかかるとは、計画を立てて満足する。【目的→手段の計画→評価→改善】
 ※ センズイキリング：不確実な状況を理解し、何をすべきか決めること。【状況判断→意思決定】

イノベーション採用者のタイプとキャズム理論

イノベーション採用者のタイプとキャズム理論

新たな事業の創出・展開 (ケース：教育業界)

提供手段: 高度画像 (Zoom等) による個別指導、MOOC(Massive Open Online Course)による講義科目科目指導 (両立)

顧客: 現代から働き手

制御テクニカルプラットフォーム研究会

■担当教員 神谷達夫（福知山公立大学地域経営学部 教授）

〔概要・趣旨〕

福知山市には、内陸工業団地である長田野工業団地をはじめ、多くの製造業が存在します。しかし、市内製造業の多くは大企業の生産工場や下請け企業であるため独自の商品開発ができない状態であると思われます。

このような状態で高付加価値製品を生み出すために、①製造だけでなく、製品開発力をつける、②地域資源によって付加価値を得るための産官学連携の2点が必要であると考えられます。

こうした背景を踏まえ、産官学連携により、研究会プロジェクトを立ち上げ、地域産業活性化を試みるため、本学と福知山市、福知山市内の企業の三者による産官学連携事業「制御テクニカルプラットフォーム研究会」事業を開始しました。

〔詳細内容〕

研究会の取組内容

1 獣害対策ドローン

本研究会は、事業者の皆様にとって身近で注目されやすい研究であることを考慮し、ドローン技術を獣害対策に応用するということから始まりました。このため、獣害対策用ドローンに関連したテーマから各企業に必要な技術に広げて、研修や技術開発を進めて行くことを考えています。

獣害対策用ドローンは、シカ等の動物による獣害を防ぐために、ドローンを動物に接近させ、ドローンの発する音や光によって動物の接近を防ぐ動作をします（図1）。

研究会での開発要素としては、ドローンの制御、ドローンの飛行位置同定、非接触給電、動物の反応の確認等が計画されています。

現在は、安価で簡単に作ることができるドローンの製作中です（写真1）。また、実際の動物に対する影響を調べる実験等も計画中です。

また、制御テクニカルプラットフォーム研究会会員企業から、ドローンを使った屋根の損傷の判定や工場内の獣害対策への応用が提案されています。

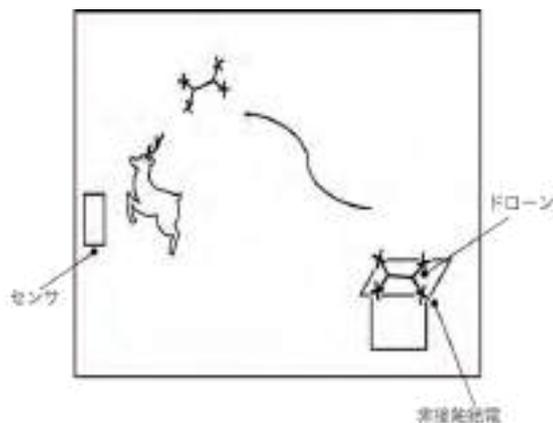


図1：獣害対策ドローン概念図



写真1：製作中の小型ドローン

2 リアクションホイール教材

ドローンは移動が速いため開発中に壊れやすく、制御技術そのものの習得には適していません。全く技術を持たない者がドローンの制御パラメータを変更すると、ドローンはすぐに墜落してしまいます。したがって、制御の入門としては適していないことがドローン製作により分かってきました。

そこで、入門用教材に適した題材を探していたところ、技術的な探求や宇宙機ビジネスのためにリアクションホイールを製作するグループがあることが分かり、リアクションホイールの模型製作をこの事業に応用することを考えました。ドローンの制御の実験に入る前の教材であるため、実用的なリアクションホイールとは異なり、1軸のホイールとしています。

試作品は写真2のとおり完成し動作しています。写真は試作品を実際に動作させている場面であり、ホイール本体が立ち上がっています。ただし、この試作品のままでは販売価格が高価になるため、産官学でコスト低減の案を検討中です。

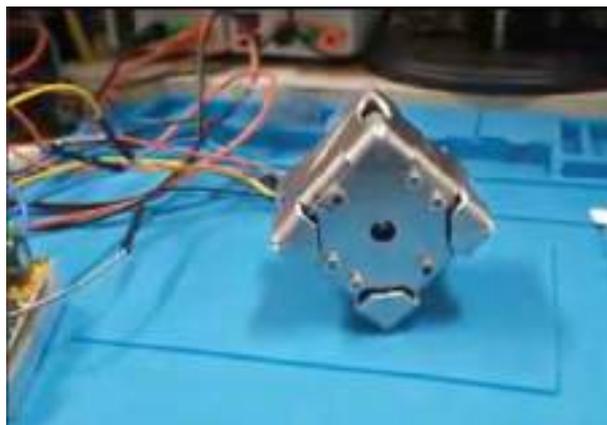


写真2：リアクションホイール教材の試作

3 企業と学生の連携事業

制御テクニカルプラットフォーム研究会の集まりによって産官学の情報交換が密になった結果、学生と企業との協働企画が進み始めました。写真3は、企業と学生、福知山市役所産業振興部産業観光課との打ち合わせ風景です。

この連携事業では、長田野工業団地に立地する企業と学生が、その企業の製品を使用した作品を製作し、それを基に企業の紹介動画を作成します。

2021年1月時点において、学生らが企業の製品を利用して高性能のコンピュータシステムを製作するという企画が進んでおり、企業と共に設計が進行中です。また、学生らは動画サイト上にその企画の内容を発表する形で企業PRの動画を公開しています。



写真3：企業と学生、市役所関連部署の打ち合わせの様子

■研究部

2020 年度地域研究プロジェクト

(北近畿地域連携機構研究助成)

〔概要・趣旨〕

北近畿地域連携機構研究助成「地域研究プロジェクト」は、本学教員の地域連携型教育研究活動を促進し、地域・企業が抱えるニーズ、課題等に対して大学が持つ「知」を活用する機会を創出することを目的とします。

〔詳細内容〕

北近畿地域連携会議の第2期（2019年度～2020年度）研究課題との関連性があることを申請条件とする「指定課題」と「自由課題」で学内教員を対象に公募・審査を行い、以下の7件を採択しました。

指定課題

(敬称略)

	申請者	共同研究者	研究課題名	決定額
1	岡本悦司	神谷達夫	新駅・新愛称による福知山線活性化に関する研究	200,000 円

自由課題

(敬称略、順不同)

	申請者	共同研究者	研究課題名	決定額
1	亀井 省吾	渋谷 節子 板倉 宏昭 (東京都立産業技術 大学院大学)	地域同族企業の後継者選択プロセスと SEW の拡張性	200,000 円
2	神谷 達夫	山田 篤	機械学習型人工知能を用いた農作物の選別システムの構築	100,000 円
3	鄭 年皓	三好 ゆう	大河ドラマ「麒麟がくる」の放映が福知山および北近畿地域における地域活性化に与える影響に関する研究	100,000 円
4	川島 典子	岡本 悦司	福知山市の高合計特殊出生率の要因分析に関する研究—ソーシャル・キャピタルの下位概念に着目して—	200,000 円
5	張 明軍	渋谷 節子	外国人居住者の基本的欲求と異文化感受性との関係性に関する研究	200,000 円
6	崔 童殷	桑原 紀彰 (京都工芸繊維大学)	ポストコロナのライフスタイルの変化とその支援対策に関する研究	200,000 円

<2019年度採択分地域研究プロジェクト成果報告会>

市民交流プラザふくちやまにおいて、2019年度に実施した4つの地域研究プロジェクトの成果報告会を開催しました。

「参加者と研究者との交流の場を創出する」ことに軸を置き、ポスターセッション形式による発表としました。

○日 時 2021年2月22日(月) 17:00～19:00

○場 所 市民交流プラザふくちやま3階ギャラリー(福知山市駅前町400)

○研究内容

	研究代表者	共同研究者	研究課題名
1	鄭 年皓	三好 ゆう	大河ドラマ「麒麟がくる」の放映が福知山および北近畿地域における地域活性化に与える影響に関する研究
2	山田 篤	神谷 達夫	機械学習型人工知能を用いた安価な農作物の選別システムの構築
3	神谷 達夫	岡本 悦司	高精度衛星測位を用いた自動車運転技能確認の研究(2)
4	佐藤 充	神谷 達夫 江上 直樹	北近畿地域におけるデータ駆動型の観光地経営に関する研究



令和2年度福知山企業交流会

■日時 2020年11月26日(木) 16:00～17:30

■会場 ホテルロイヤルヒル福知山&スパ

〔概要・趣旨〕

令和2年度福知山企業交流会が福知山商工会議所の主催で開催されました。長田野工業団地と福知山市内の既存事業者との結びつき及び交流の促進、また、地域社会の発展と相互の連携、情報の共有を目的として福知山市内の企業から約40人が集まりました。

企業交流会において、矢口芳生北近畿地域連携機構長と情報学部の中本吉伸教授が講演者として登壇しましたので、講演の様子を紹介します。



矢口機構長講演内容

講演テーマ：大学の社会貢献—福知山公立大学を例に—

本学の北近畿地域連携機構の取り組みを紹介し、大学の果たす社会貢献について解説しました。また、北近畿地域連携機構の地域、企業、行政との連携の現状と、将来への展望を熱く語りました。

大学の社会貢献

福知山公立大学北近畿地域連携機構の取り組み
矢口芳生

- #### 1. 大学の機能のひとつ

 - ・ 2005年:中教審答申「我が国の高等教育の将来像」
 - ・ 2006年:教育基本法改正、2007年:学校教育法改正
- #### 2. 福知山市・北近畿地域の課題

 - ・ 産業振興
 - ・ 人財循環システム構築
 - ・ 地域振興
- #### 3. 地域協働による地域の好循環の構築

 - ・ 図1、図2、参照

図1 地域協働による福知山市等及び福知山公立大学の好循環

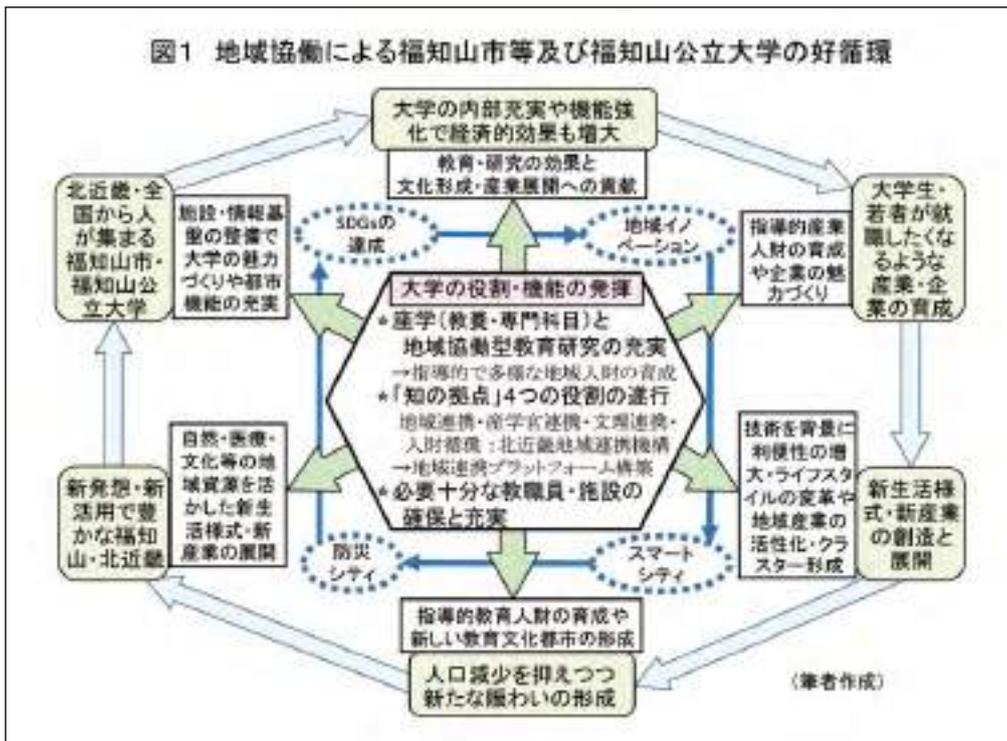
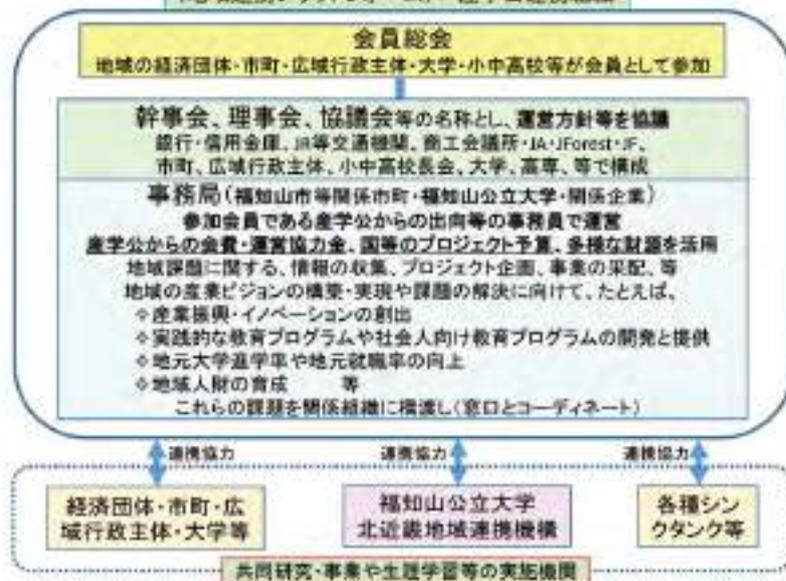


図2 地域連携プラットフォームのイメージ

(地域連携プラットフォーム) = 産学公連携組織



注、「地域連携プラットフォーム構築に関するガイドライン」(文部科学省ウェブサイト https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/platform/mext_00994.htm)2020.11.2閲覧)等をもとに筆者作成。

4. 大学の地域貢献(地域の課題に応える)

- 産業振興、医療福祉等に関する指導的人財の育成、産業の活性化、生活の質の向上に貢献
- 学び働く人財循環システムを構築し、若者が定住する賑わいと魅力ある圏域の創出に貢献
- 大学がもつ経営・情報技術を導入・実装につなげ、地元産業や官公庁等の活性化に貢献
- 新産業の形成等、新たな産業展開に貢献

5. 北近畿地域連携機構の将来計画

- 特色のある持続可能な機構運営
- 地域課題の解決への貢献
- 「知の拠点」としての4つの役割を果たす
- “地域とともに未来を拓く地域協働体制”の構築

山本吉伸教授の講演

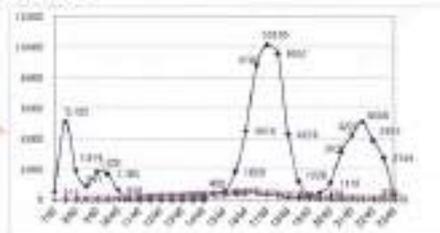
講演テーマ：製造業・サービス業はどう変わるのか—産官学連携の事例から—

城崎温泉に「サービス工学」技術を導入し、入浴客の行動観測を経済的収益の増加に結び付けることに成功した山本教授の産官学連携の事例を紹介しました。このような技術を本市をはじめとする地方都市にも応用することにより、少子高齢化、人口減少などの問題を抱える社会において製造業、サービス業の今後のあり方を変化、発展させていくアイデアを提案しました。

山本吉伸の代表的な研究成果

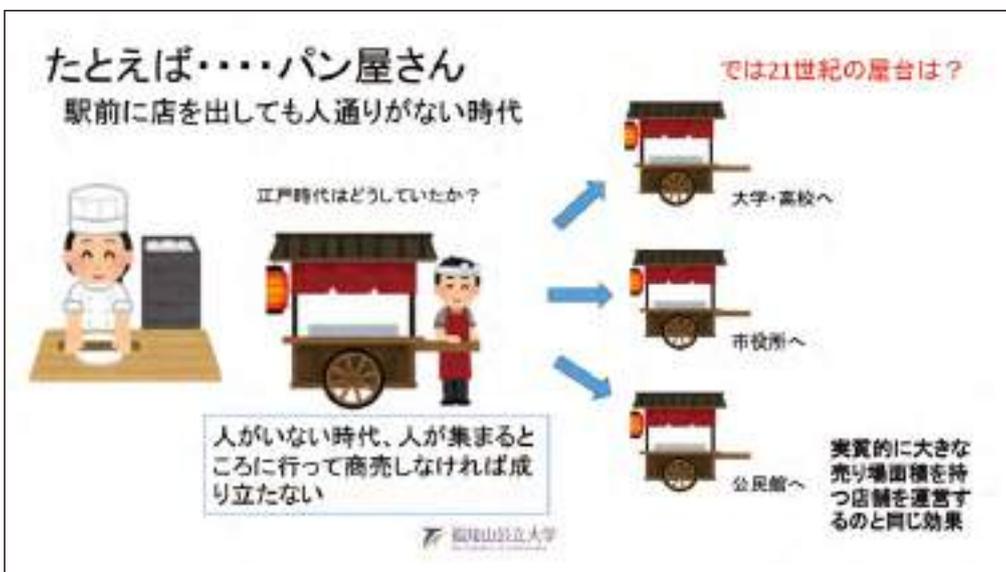
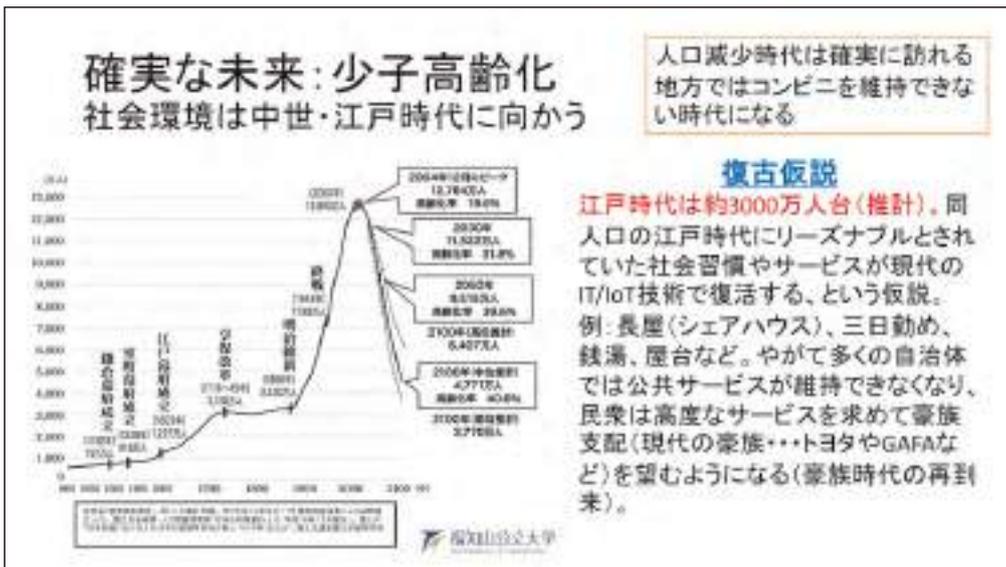
- 概要：城崎温泉に「サービス工学」技術を導入、入浴客の行動観測を経済的収益の増加に結び付けることに成功した

観光客の回遊状況の分析から、正午付近の閑散時間帯を振興する新入浴券を導入した。その結果、システム導入費用以上の大幅増収だけでなく、昼食時間帯の滞在人数を大幅に増やし、城崎温泉の飲食店・物販店に大きな経済的インパクトをもたらした。



本研究は「日経スペシャル ガイアの夜明け」で紹介されました

城崎山崎大学

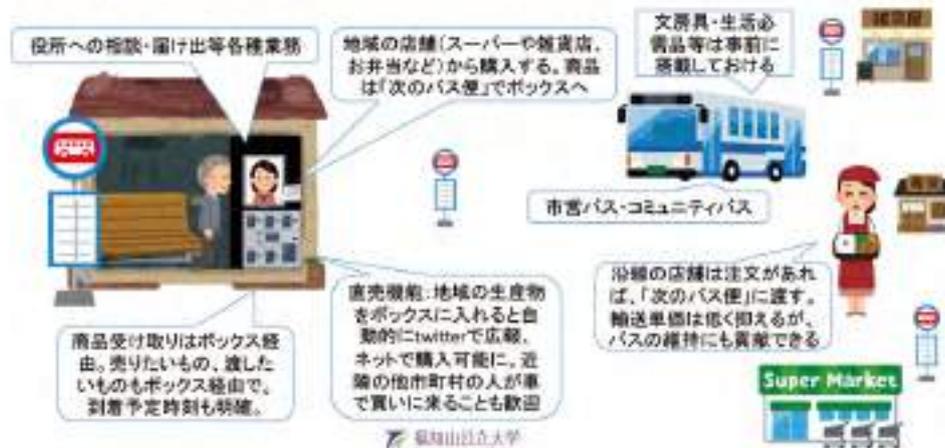


人口減少時代のコンビニ・モデル

- μストアに仕入れ担当者がいない
 - 地元の小売屋さんが商品を置く
 - 本は地元の本屋さん
 - 医薬品は地元の薬店さん
 - 雑貨は地元の雑貨屋さん
 - 売れたら直ちに通知され、必要に応じて「自分のビジネスとして」補充
- 地元の小売屋さんにとっては人が集まる場所に広大な売場面積を持つ店舗を運営しているのと同じ効果

福知山立大

バス停の(物流とサービスの)ミニ拠点化



消費税をさらに3%UPするとしたら!?



北近畿地域は、海外投資家の草刈り場になってしまう危機に面している

福知山国立大学

すべての構想は電子マネーがベース



江戸時代の三貨制度

金(小判、一両判)、銀(丁銀、豆板銀)および鉄(寛永通寶)といふ基本通貨が発行流通した貨幣制度のこと
 大口取引には金貨および銀貨が用いられたが、一般の小売には銅貨が主として用いられ、実用は銅貨および鉄に兌換を手にする程度であった。このような仕組みは決して制度として確立されたものではなく(自然発生的に形成されたものであった。(wikipediaより))

鉄貨が使われている店舗の商品を金貨で買うことはできなかった。
 現在でいえば、円とユーロが流通しているような状況で、円で購入されている商品をユーロで直接買うことができないのが当時の常識だった。(それゆえ、両替商が繁盛した)

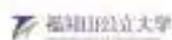
江戸時代には複数の貨幣制度を実施していた
 円建てではない独自マネーの流通は可能

出典: <http://www.wattpu.jp/?bookfrom=0&reference=44.html>

福知山国立大学

北近畿経済圏独自の 「無人店舗サービス基盤」構想 -- 独自電子マネーネットワークの構築 --

- 目的
 - ・ 北近畿全域での無人店舗を広く利用できるようにする
 - ・ 域内の少額資金流通を促進し、域外流出を減らす
- 特徴
 - ・ トランザクションフィーは無料。ATM利用料だけ
 - ・ 一般の小売店舗のコスト負担はスマホとネットワーク環境だけ
 - ・ 運営コストを最小限にして長期運営を目指す
- 初期段階
 - ・ 公的機関での支払いに利用できることが望ましい
 - ・ おつりのチャージからスタートする案も可能
 - ・ 地域商店街・地元飲食店で使えるクーポン企画を載せる



講演の成果

会場の参加者は、熱い視線を送り、講演に耳を傾けていただきました。

講演後も好評の声をいただき、地域連携における機構の役割が伝わるとともに産学官連携の気運が高まる機会となりました。



矢口芳生機構長



山本吉伸教授

■研究部

2020 年度研究費獲得実績

■科学研究費助成事業

【研究代表者】

16 件（15 人）（うち 2020 年度新規採択 7 件（7 人））

合計 25,600,000 円（直接経費配分額 12,510,000 円）

地域経営学部：8 件（8 人）

	教員名	研究種目	研究期間	2020 直接経費 (配分額)	研究課題名
1	倉田 良樹	基盤研究 (C) (一般)	2018～ 2020 (3年)	700,000 円 (600,000 円)	現代日本における労働者の熟練衰退 に関する知識社会学的研究
2	佐藤 恵	基盤研究 (C) (一般)	2019～ 2021 (3年)	1,300,000 円 (825,000 円)	DPC/PDPS で収集される傷病名の データ品質と医学的品質の評価と改善
3	大谷 杏	若手研究	2019～ 2021 (3年)	400,000 円 (400,000 円)	フィンランドすべての住民に開かれ た生涯学習機関の研究
4	神谷 達夫	基盤研究 (C) (一般)	2020～ 2022 (3年)	1,200,000 円 (1,000,000 円)	観光者の動態把握におけるビッグ データ活用
5	渋谷 節子	基盤研究 (C) (一般)	2020～ 2022 (3年)	1,100,000 円 (1,100,000 円)	ベトナムの経済発展から取り残され た貧しい農民家族の社会経済的 生活の研究
6	佐藤 充	若手研究	2020～ 2023 (4年)	300,000 円 (300,000 円)	観光地のスマート化とデータマネジ メントに関する研究
7	江上 直樹	若手研究	2020～ 2021 (2年)	500,000 円 (500,000 円)	地域と協働した探求学習を導入する 上での課題－高校のコストと地域格 差に着目して－
8	張 明軍	若手研究	2020～ 2021 (2年)	500,000 円 (500,000 円)	農山漁村地域における住民の対外国 人意識に関する研究
合計				6,000,000 円 (5,225,000 円)	

*配分額：研究代表者に配分される直接経費の額。研究分担者に配分する直接経費の額は含まない。

情報学部：8件（7人）

	申請者	研究種目	研究期間	2020 直接経費 (配分額)	研究課題名
1	西田 豊明	基盤研究 (A) (一般)	2019～ 2021 (3年)	10,300,000 円 (1,100,000 円)	会話基盤更新プロセスの可視化と異文化コミュニケーション学習支援での検証
2	田中 克己	基盤研究 (B) (一般)	2018～ 2020 (3年)	3,200,000 円 (700,000 円)	ビッグデータ学習による意味的情報検索
3	松山 江里	若手研究	2018～ 2021 (4年)	600,000 円 (600,000 円)	Deep Learning と多重解像度解析を融合した肺 CT の癌検出システムの開発
4	畠中 利治	基盤研究 (C) (特設分野研究)	2018～ 2020 (3年)	1,300,000 円 (1,100,000 円)	人工物システムの持続的運用のための自動シナリオ生成とそのシミュレーション
5	畠中 利治	基盤研究 (C) (一般)	2020～ 2023 (4年)	1,000,000 円 (1,000,000 円)	確率的多点探索における有望領域の絞り込み過程の数理モデリング
6	橋田 光代	挑戦的研究 (萌芽)	2018～ 2020 (3年)	1,300,000 円 (885,000 円)	ピアノ演奏におけるフレージングの意図伝達と個性表出に関する研究
7	衣川 昌宏	若手研究	2018～ 2020 (3年)	700,000 円 (700,000 円)	RF ハードウェアトロイの脅威分析と対策技術の開拓
8	渡邊扇之介	若手研究	2020～ 2023 (4年)	1,200,000 円 (1,200,000 円)	Max-plus 代数における量子ウォークモデルの構築とその応用
合計				19,600,000 円 (7,285,000 円)	

*配分額：研究代表者に配分される直接経費の額。研究分担者に配分する直接経費の額は含まない。

【研究分担者】

15 件（12 人） 合計 4,308,000 円（直接経費配分額）

情報学部：8件（7人）

	教員名	研究種目	研究期間	2020 直接経費 (配分額)	研究課題名	研究代表者の所属機関
1	中尾 誠二	基盤研究 (C) (一般)	2017～ 2020 (4年)	(191,705 円) ※繰越額	ボランティア型農的体験活動の現地コーディネート機能と政策的推進方策に関する研究	東京農業大学

	教員名	研究種目	研究期間	2020 直接経費	研究課題名	研究代表者の所属機関
2	杉岡 秀紀	基盤研究 (B) (一般)	2019～ 2023 (5年)	120,000 円	公共図書館の多様な活動を評価する統合的指標の開発	同志社大学
3	杉岡 秀紀	基盤研究 (C) (一般)	2019～ 2022 (4年)	100,000 円	「わかる」と「できる」が拡大し、キャリアが展望できる「チーム探究」に関する研究	京都光華女子大学
4	杉岡 秀紀	基盤研究 (C) (一般)	2019～ 2021 (3年)	80,000 円	人口減少社会における子ども・若者の包括的支援と地域再生に向けた公私連携・協働	京都府立大学
5	井上 直樹	国際共同研究 強化 (B)	2019～ 2023 (5年)	250,000 円	英国政府の公監査政策と公検査政策の成果と課題 －わが国自治体の財政民主主義への示唆－	関西学院大学
6	佐藤 充	基盤研究 (C) (一般)	2020～ 2022 (3年)	100,000 円	観光者の動態把握におけるビッグデータ活用	福知山公立大学 (神谷達夫)
7	江上 直樹	基盤研究 (C) (一般)	2020～ 2022 (3年)	100,000 円	観光者の動態把握におけるビッグデータ活用	福知山公立大学 (神谷達夫)
8	澤口 聡子	基盤研究 (B) (一般)	2020～ 2023 (4年)	600,000 円	機械学習による企業行動構造の分析の研究	学習院大学
9	林 亜紀	基盤研究 (C) (一般)	2019～ 2021 (3年)	50,000 円	DPC/PDPS で収集される傷病名のデータ品質と医学的品質の評価と改善	福知山公立大学 (佐藤 恵)
合計				1,400,000 円		

*「1 中尾 誠二」の繰越額を除く。

情報学部：6件（5人）

	教員名	研究種目	研究期間	2020 直接経費	研究課題名	研究代表者の所属機関
1	黄 宏軒	基盤研究 (A) (一般)	2019～ 2021 (3年)	1,700,000 円	会話基盤更新プロセスの可視化と異文化コミュニケーション学習支援での検証	福知山公立大学 (西田豊明)
2	黄 宏軒	基盤研究 (C) (一般)	2019～ 2021 (3年)	250,000 円	ユーザ誘引のための複数仮想エージェントビヘイビアによる集団状況生成モデル	名古屋大学
3	畠中 利治	基盤研究 (C) (一般)	2019～ 2021 (3年)	300,000 円	数学 IR 高度化に向けた学びのミクロ・マクロデータの統合的なモデル化手法の開発	東京都立大学
4	橋田 光代	挑戦的研究 (萌芽)	2019～ 2020 (2年)	358,000 円	ピアニストが演奏表現にこめた感動のデザインの定量的分析	関西学院大学
5	渡邊扇之介	基盤研究 (C) (一般)	2019～ 2022 (4年)	100,000 円	Max-plus 代数上の線形計算アルゴリズムの開発とその応用	芝浦工業大学
6	眞鍋 雄貴	基盤研究 (A) (一般)	2018～ 2023 (6年)	200,000 円	オープンソースソフトウェアのリスクや健全性診断のためのエコシステム分析法の開発	大阪大学
合計				2,908,000 円		

■民間研究助成

地域経営学部：1件（1人） 合計 450,000 円（研究期間総額）

	教員名	外部資金名称	直接経費 (2020 配分額)	研究課題名
1	井上 直樹 (研究代表者)	一般社団法人 日本内部監査協会 2018 年度研究助成	450,000 円 (0 円)	地方自治体における内部統制評価報告書の導入と議会のガバナンス機能に関する調査研究
合計			450,000 円 (0 円)	

*研究期間は 2018 年 10 月～2021 年 3 月の 2 年 6 ヶ月

*配分額：研究代表者に配分される直接経費の額

■受託研究

3件（3人） 合計 11,013,900円（研究期間総額）

	教員名	委託機関	直接経費 (2020 配分額)	研究課題名
1	江上 直樹 (研究代表者)	京都府中丹広域振興局 企画連携推進課	273,000円 (273,000円)	「地域の魅力カタログ」作成調査
2	江上 直樹 (研究代表者)	舞鶴市	90,900円 (90,900円)	舞鶴市民の社会教育活動に対する意識調査
3	川島 典子 (研究代表者)	独立行政法人日本学術振興会 「課題設定による先導的人文学・ 社会科学研究推進事業」 領域開拓プログラム	10,650,000円 (2,200,000円)	AIが介護保険行政を代行する際の ルールに関する研究 －地域経営とSCの視座から－
合計			11,013,900円 (2,563,900円)	

3：研究期間は2020年10月～2023年3月の2年6ヶ月

*配分額：研究代表者に配分される直接経費の額

■受託事業

4件（4人） 合計 5,790,306円

	教員名	委託機関	直接経費 (2020 配分額)	研究課題名
1	—	福知山市	1,000,000円 (1,000,000円)	福知山市若者まちづくり未来ラボ事業
2	—	京都府北部地域連携 都市圏形成推進協議会	150,000円 (150,000円)	北近畿創生フューチャーセッション (京都府北部地域連携都市圏生涯学 習講座)
3	倉本 到 (研究代表者)	京都知恵産業創造の森 (産学公連携共同研究開発事業)	194,851円 (194,851円)	ロボットとICT技術による福知山 駅活性化の検討
4	佐藤 充 (研究分担者)	京都府 (人・まち・キャンパス連携支援事業)	300,000円 (300,000円)	デジタル化時代の「次世代型地域づ くり」を担う人材育成のための研究 教育拠点の形成
5	畠中 利治 (研究代表者)	福知山市	3,545,455円 (3,545,455円)	ラーニングイノベーション・プロ ジェクト監修業務
6	山本 吉伸 (研究代表者)	福知山市	600,000円 (600,000円)	スマートシティ推進事業等支援業務
合計			5,790,306円 (5,790,306円)	

*1及び2は、北近畿地域連携機構市民学習部において受託

■共同研究

1件（1人） 合計 30,000円

	教員名	共同研究機関	直接経費 (2020配分額)	研究課題名
1	山本 吉伸	福知山市内企業	30,000円 (30,000円)	青年層の定期健診習慣化を実現する 技術に関する先導的研究
合計			30,000円 (30,000円)	

■市民学習部

京都府北部地域連携都市圏生涯学習講座 北近畿創生フューチャーセッション

① 住民発 魅力発信の未来

- 2020年11月29日(日) 13:00～16:00
- 宮津市福祉・教育総合プラザ 第一コミュニティルーム
- 38人
- 講師：大垣弥生(生駒市広報広聴課長)、寺田俊介(カミヤヅラボ代表)
- コメンテーター：
 - 川島典子(福知山公立大学地域経営学部 教授)
 - 山本吉伸(福知山公立大学情報学部 教授)

② IJU ターンで拓く 地域創生の未来

- 2021年2月6日(土) 13:00～16:00
- オンライン開催
- 44人
- 講師：光野由里絵(一般社団法人地域・人材共創機構事務局長)、
大力浩二(里山福業家)
- コメンテーター：
 - 中尾誠二(福知山公立大学地域経営学部 教授)
 - 平田佳宏(あやべ市民新聞社経営企画室長)

主催/共催 福知山公立大学/京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会

〔概要・趣旨〕

本事業は、圏域やセクターを超え、北近畿地域で共通する課題(テーマ)に関心を持つ者が集い、北近畿地域内(京都府北部・兵庫県北部)のスピーカーなどからの話題提供により、課題解決のための方策を参加者全員で検討する場所やコミュニティを創造することを目的に2年前より京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会(本事業は本学の包括協定先であり、京都府北部の5市2町から構成される自治体の集まり)との共催事業として実施しているもので、今年度は宮津市、綾部市で開催しました。

〔詳細・内容〕

(1) 第1回

第1回は2020年11月29日(日)に宮津市福祉・教育総合プラザにて開催しました。テーマを「住民発・魅力発信の未来」とし、ゲストとして、生駒市広報広聴課長の大垣弥生氏とカミヤヅラボの寺田俊介氏にご登壇いただきました。ゲストによる話題提供の後は、大学生、京都府北部5市2町の自治体職員、地元住民ら参加者約30人が5グループに分かれて未来志向のグループワー



クフューチャーセッションを行い、最後に全体で共有後、本学の川島典子教授（地域経営学部）、山本吉伸教授（情報学部）が講評しました。参加者からは「”人”と”地域”とつながること、やってみることの大切さを感じました」「グループセッションでは、人の想いを共有することが必要だと感じました」「今は好きじゃなくても、地域を離れたら、数年後ふと思い出したりしたときに地域の魅力がわかると思いました」といった感想が寄せられ、満足度（満足とやや満足の合計）は95%でした。



(2) 第2回

第2回は2021年2月6日（土）に緊急事態宣言の延長を受け、オンライン（zoom）にて開催しました。テーマを「IJUターンで拓く地域創生の未来」とし、ゲストとして一般社団法人地域・人材共創機構 事務局長／雲南市政策推進課企業チャレンジ事務局の光野由里絵氏と里山福業家（里山に刺激と幸せもたらす副業家）の大力浩二氏をご登壇いただきました。ゲストによる話題提供の後、大学生、京都府北部5市2町の自治体職員、地元住民ら参加者約40人が6グループに分かれて未来志向のグループワークフューチャーセッションを行い、最後に全体で共有後、コメンテーターとして登壇した本学の中尾誠二・地域経営学部教授とあやべ市民新聞社経営企画室長の平田佳宏氏が講評しました。参加者からは「雲南市の取り組みは目を見張るものがあった」「いろいろなキーワードをたくさんもらうことができた」「綾部という魅力ある街に暮らせていることに感謝した」「フューチャーセッションは、グループで議論を深めるので楽しかったし、学びが増えた」「世代の違う方とお話しができ、刺激を受けた」といった感想が寄せられ、満足度（満足とやや満足の合計）も100%でした。

以上、1年間の事業の成果としては、今年度も北近畿地域の自治体と企画段階から協働できたことと、講師、参加者ともに、北近畿内外から参加が得られたこと、対面でもオンラインでも開催できる可能性を検証できたことが挙げられます。



福知山市若者まちづくり未来ラボ事業

■主催 福知山市まちづくり推進課

■企画・運営 福知山公立大学 北近畿地域連携機構市民学習部

〔概要・趣旨〕

福知山市にゆかりのある若者が集まり、まちの未来について語り合い、地域に関わる「やってみたいこと」や「私たちにできること」を具体的に考え、活動する場を通して、若者のふるさとへの関心や愛着を醸成し、将来にわたり地域の元気を創出するアクティブな関係人口としての人材を育成することを目的に、(1) 福知山わかもの会議 (3回)、(2) ふくちやま次世代交流ワークショップ、(3) 未来ラボ事業プロジェクト支援 2020 及び報告会を実施しました。

〔詳細・講演内容〕

(1) 福知山わかもの会議

福知山わかもの会議は、7月25日(土)、8月23日、9月12日(土)の3回実施しました。いずれもコロナ対策によりオンライン(zoom)を活用しました。内容は、趣旨説明、ゲストからの話題提供、グループワーク(フューチャーセッション)、共有、講師コメント、まとめという内容で、杉岡秀紀市民学習部長がコーディネーターを務めました。

具体的には、1回目は「1ターン×まちづくり」をテーマに、小松遼太氏(福知山市議会議員)、中田愛氏(マイプロジェクト関西事務局)を講師に迎え、23人の参加者がありました。2回目は「1ターン×アート」をテーマに、イシワタマリ氏(山山アートセンター代表)、宇田川鎮生氏(福知山青年会議所理事長)を講師に迎え、25人の参加者がありました。3回目「1ターン×経営」をテーマに、植野由英子氏(M.代表取締役社長)、岸本道德氏(有限会社 HEADFOOT 代表)を講師に迎え、35人の参加者がありました。

アンケートによると、いずれの回も満足度(満足・やや満足)が100%という結果で、自由記述欄にも「オンラインでも想像していたよりも白熱した議論を交わすことができ良かった」「話し合いを進める中で同じくらいの世代の方々と大学の授業以外で話す機会って確かに少ないなあと思いながら参加したが、良い話し合いができたのではないかと思う」「1つの市の未来について多様な意見が出て、話し合いのまちづくりや若者の可能性を少し感じられた」といったコメントが寄せられました。また、オンライン開催ということもあり、福知山出身で都市部に通う大学生や府外の高校生など多様な参加者があり、9月に開催した次世代交流ワークショップや未来ラボプロジェクトの土台となるコミュニティができたのが最大の成果と言えます。



(2) 次世代交流ワークショップ事業

ふくちやま次世代交流ワークショップは、2013年度より福知山市が主催として実施してきた事業ですが、今年度は本学が事務局となり、福知山市若者まちづくり未来ラボ事業の一環として、実施しました。

具体的に、9月26日(土)の10~16時にオンライン(zoom)で実施しました。内容は、開会挨拶、

趣旨説明、チェックイン、話題提供①(龍谷大学政策学部・只友景士教授)、話題提供②(北近畿をいじるコンテンツ受賞者：京都府立福知山高校1年・宮本凌氏、京都大学地域創生サークル「エスの3ジョウ」松井優氏、近畿大学附属豊岡高校・野崎彩有里氏、西垣征宏氏)、グループワーク(フューチャーセッション)、共有、講師コメント、まとめというプログラムで行い、杉岡秀紀市民学習部長がコーディネーターを務めました。

なお、この実施に際しては、龍谷大学政策学部と連携し、9月11日にオンラインファシリテーター研修、9月21日には現地フィールドワークも行いました。

当日は50人の参加者があり、アンケートは満足度(満足・やや満足)が90%という結果でした。また、参加者の属性もわかもの会議に比してさらに多様化が進み、東京や鳥取などかなり遠方の福知山にゆかりある若者(福知山の関係人口)が参加してくれました。ここから後述する未来ラボ事業プロジェクト支援2020の2つのアイデアが誕生したのが成果と言えます。



(3) 未来ラボ事業プロジェクト支援2020

福知山わかもの会議、ふくちやま次世代交流ワークショップで出たアイデアを実装すべく、「未来ラボ事業プロジェクト支援2020」を公募しました。この事業は上限15万円までの助成事業になります。9月17日～10月8日の約3週間の公募し、2件(学生大集合!ふくちやま同想会、市内だけじゃない!～旧三町魅力発信プロジェクト～)の応募がありました。事業計画書や収支予算書、名簿の書類選考の後、10月20日に福知山市、本学による審査委員会で審査し、2件とも採択が決まりました。

そして、未来ラボ事業プロジェクト支援2020の成果報告の場を作るべく、2021年2月27日(土)には成果報告会をオンラインで実施しました。内容は、開会挨拶・趣旨説明(福知山市)、基調講演、成果報告①「学生大集合!ふくちやま同想会」、成果報告②「市内だけじゃない!～旧三町魅力発信プロジェクト～」、特別報告(龍谷大学政策学部)による活動報告、パネルディスカッション、講評、閉会の挨拶というプログラムで行い、当日は44人の参加者がありました。

具体的には、基調講演では、大正大学地域構想研究所特命教授の山本繁氏に「地域を舞台に自分だけのアイデアを形にしよう」というテーマでお話し頂きました。成果報告については、プロジェクト代表の松井優氏(京都大学法学部2年生)、山本優花氏(福知山公立大学地域経営学部2年生)からそれぞれ報告頂きました。特別報告については、龍谷大学政策学部政策実践・探究演習の学生から活動報告がありました。パネルディスカッションについては、山本繁特命教授、松井優氏、山本優花氏に加え、只友景士龍谷大学政策学部教授が登壇し、杉岡秀紀市民学習部長がコーディネーターを務めました。

以上、1年間の事業の成果としては、2019年度に実施した「関係人口創出・拡大事業モデル事業」の後継事業として、福知山市や近隣市町においてふるさとへの愛着や関心の高い関係人口(とりわけ若者)の発掘と育成に引き続き繋げることができたこと、そのアプローチを福知山市と協働することにより、事業の持続可能性を担保できたこと、加えて、近隣の高校生を事業に巻き込むことで、高大連携に繋がったことが挙げられます。



■市民学習部

福知山公立大学 分野別公開講座

2020 年社会を豊かにする情報学 - その理論と実践 -

- ①第1部：コミュニケーションをするAI – 背後の仕組みからその制約と強み –
 第2部：いまや欠かせないゲームの人口知能
 ■2020年8月27日（木）18：30～20：30
 ■市民交流プラザふくちやま 視聴覚室
 ■31人（オンライン含む）
 ■第1部講師：黄宏軒（福知山公立大学情報学部 教授）
 ■第2部講師：藤井叙人（福知山公立大学情報学部 講師）
- ②第1部 情報×Design Thinking
 第2部：次世代をつなぐ音楽の科学技術と表現力
 ■2020年11月26日（木）19：00～21：00
 ■市民交流プラザふくちやま 会議室3-2、3-3
 ■33人（オンライン含む）
 ■第1部講師：崔童殷（福知山公立大学情報学部 准教授）
 ■第2部講師：橋田光代（福知山公立大学情報学部 准教授）
- ③第1部：コンピューターによる画像診断支援～ディープラーニングにできること～
 第2部：デジタル画像など、マルチメディアデータについて
 ■2021年2月22日（月）18：00～19：40
 ■市民交流プラザふくちやま 会議室3-2、3-3
 ■31人（オンライン含む）
 ■第1部講師：松山江里（福知山公立大学情報学部 教授）
 ■第2部講師：河合宏紀（福知山公立大学情報学部 講師）

主催 福知山公立大学北近畿地域連携機構市民学習部

〔概要・趣旨〕

分野別公開講座は、市民向けの公開講座として、大学および関連学界での研究や事業を紹介することにより、大学と市民（あるいは、地域内企業）との関係を広げ、相互理解を活性化することを目指した講座です。本年度は特に、2020年度の情報学部開学に合わせ、情報学部教員とその研究分野の紹介を兼ねて、情報技術と地域社会との関係性について講演を依頼しました。また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、会場での対面での講演に加え、Zoomによるオンライン聴講環境の提供も同時に行い、例年と比較して遜色のない参加者にご聴講いただくことができました。

〔詳細・内容〕

本年度は合計3回、6人の情報学部教員に講演を依頼しました。内容は情報学に関する幅広い分野にまたがり、人工知能や画像処理の基礎からゲームや医療への応用まで多岐にわたる内容での講演となりました。

第1回：日時：2020年8月27日（木）18時30分～20時30分**場所：市民交流プラザふくちやま 視聴覚室**

初回となる8月の講演では、まず藤井叙人講師による「いまや欠かせないゲームの人工知能」に関する講演でした。スマホでもゲーム機でもゲームセンターでも、いまいつでもどこでもゲームができる時代になりましたが、それらのゲームには人工知能の存在が欠かせません。藤井先生は、コンピュータ自らが思考し行動するゲームの人工知能について、具体的な例を挙げつつ、「情報学としてゲームを学問する」という視点から紹介されました。まず、日本のゲーム産業の成長度について述べ、ゲームをすること自体が職業となる時代となったことを背景とし、ゲームにおける3種類の人工知能の例を、実際のゲームタイトルやゲーム映像を交えて紹介されました。次に、ゲームを学問として扱うために発展した研究分野であるゲーム情報学について触れられました。具体例として、ゲーム情報学で学問として扱われてきたゲームである、チェス、将棋、囲碁などのボードゲームを挙げ、これらのゲームにおける人工知能の進化の過程と、もはや人間のトッププロがコンピュータに勝てない時代になっていることを紹介しました。また、デジタルゲームへの発展としては、パックマンやマリオ、格闘ゲームやカーリングなどの例を紹介されました。



次に、黄宏軒教授による「コミュニケーションをするAI—背後の仕組みからその制約と強み—」と題する講演が実施されました。人工知能といえば、SF 映画などに登場する、知性を持って人間のように振る舞い、コミュニケーションの取れるロボットが頭に浮かぶ人は多いのではないのでしょうか。中には、人間の仕事が彼らに奪われるのではないかと心配する人もおられるかもしれません。黄先生によると、現在の技術で実現できる対話型 AI は、まだ映画のようなレベルには程遠いものの、エンターテインメントや介護の分野での応用が広がりつつあります。この講座では、言葉だけではなく、表情や身振り手振りをも使って人間と対話のできる AI を実現するための技術の概要について最近の研究事例を交えて紹介されました。そして、人間と比べてどのような制約があるか、どこに強みがあるかについても説明していただきました。当日の講義は

以下のトピックで構成されていました。

- AI とコミュニケーション
- コンピュータで実現する対話システムの基本的な仕組みと限界
- コミュニケーション中の非言語行動
- 対話の形態、目的の有無、主導権、人数による対話 AI システムの分類
- 対話システムの事例紹介
- 対話システムを実現する手法 – ルールベースのシステムとその仕組み
- 対話システムを実現する手法 – 機械学習を用いたシステムとその仕組み

第2回：日時：2020年11月26日（木）19：00～21：00

場所：市民交流プラザふくちやま 会議室3-2、3-3

2回目の講座では、女性教員2人による講演が行われました。まず崔童殷准教授より、「情報 (Big Data)×Design Thinking」と題して講演が行われました。人類は生活の便利さを求め様々な「道具」を使い、より楽な、より豊かな生活環境を作り上げました。その結果、人間生活の周りには多くの情報が溢れ、今は「ビックデータ」という情報社会時代を迎えています。これらの膨大な情報から新たな課題を発見し、その問題を解決する考え方としてデザインに必要な思考方法が「Design Thinking)」です。崔先生の講演では、その紹介と、実際の生活への取り入れ方を、以下のトピックに沿ってご講演されました。

- 人類と道具「スマホ」
- なぜ今「デザイン思考」なのか？
- 情報 (Big Data)×Design Thinking



続いて、橋田光代准教授より、「次代をつなぐ音楽の科学技術と表現力」という題目での講演が行われました。音楽は心を豊かにし、生活に潤いを与える大事な要素である一方で、音楽の表現や接し方は常に科学技術とともに広がっていくものでもあります。この講演ではまず音楽の「記録・再生」に着目し、蓄音機時代から現在の音楽保存技術までの歴史を様々な実例を踏まえつつ展開しました。その後、音楽表現の変遷として、音楽を表す技術がどのように進歩してきたかを情報学的な側面から論じられました。最近の音楽世界では、歌声合成処理のように、コンピュータなしでは実現しえなかった新しい音楽技術と並走して、これまでの楽曲の殻を破った新しい音楽表現の登場までを広く取り上げたとご講演となりました。

第3回：日時：2021年2月22日（月）18：00～19：40

場所：市民交流プラザふくちやま 会議室3-2、3-3

2021年2月に実施された3回目の講座は、画像処理の技術と応用についての講演となりました。まず松山江里教授より、画像処理ならびにディープラーニング（深層学習）が、画像診断の支援としていかに有用であるかを実感できるようにすることを目指したご講演がありました。まず、ヒトはモノを見た時、無意識に自らの知識の中から最もよく似たモノ（特徴・パターン）探し出し、結び付けてゆく（パターン認識）ものであることが紹介されました。他方、モノの見え方を変える事ができる技術を画像処理と呼びます。この画像処理は、モノの見え方を変える情報技術であることから、ヒトのパターン認識の精度向上に役立つことがわかります。こと医療機関においては、医師もまた医療という重要な場面で様々なパターン認



識を行います。このことから、画像処理は医師の診断精度を向上させることが可能な技術であるといえます。松山先生は、医用機器・検査・治療の概要を説明し、臨床画像を用いて、画像処理の素晴らしい効果を体感できる具体例に富んだ講演をされました。また、昨今驚異的に精度をあげているディープラーニングが、画像診断にどれだけ貢献できるのかということ、結果を示しながら概説されました。



次に、河合宏紀講師による、「デジタル画像とマルチメディアデータについて」という題で講演が行われました。インターネットで画像検索した際、画像ファイルの形式(以降、画像形式)にはいろいろと種類があることに気がきます。本講座では特にポピュラーな画像形式を選んで、その特徴や用途に応じた使い分けが紹介されました。最もインターネット上でのシェアの高い JPEG 形式は、多くのデジカメの保存形式として利用されており、フルカラー(1,677万色)を扱え、写真など色の変化の多い画像の圧縮を得意とします。JPEG のデータ圧縮は画像劣化を伴う非可逆圧縮であり、保存時に圧縮率を上げてファイルサイズを小さくすると、ブロック単位で色が均一化されたモザイク上になるなどの画質劣化を生じます。また、PNG は、JPEG より新しい画像形式で、Web で表示するために開発されました。ファイルサイズはやや大きいですが、どちらかという

とベタ塗り画像でのデータ圧縮率が高く、データ圧縮により画像劣化しない可逆圧縮のために画像が劣化しないということで、写真でもイラストでもおすすめの画像形式です。最後に、これらの2Dの静止画像のファイル形式以外に、動画や3Dデータのファイル形式についても触れられました。動画のポピュラーなファイル形式にMP4とAVCHDなどがある一方で、3DCGソフトでは多くのソフトが独自のファイル形式を採用していることなどをお話いただきました。

いずれの講演も、情報学という新しい知見をできるだけかみ砕いた形で、実例を交えながらご講演いただき、受講者からも「難しい」よりも「興味深い」という話のほうが多く聞かれ、大変好評でした。今年度は情報学部の紹介も兼ねていたため、情報学に関する講演一辺倒でしたが、次年度以降は、地域経営学部・情報学部の両輪を意識した形でうまく両者のコラボレーションが覗えるような講演を検討しています。

■市民学習部

2020年度 福知山公立大学と福知山市・丹波市・朝来市内の高等学校との高大連携研究会

①「コロナ禍と高校教育・大学教育
—オンライン教育・探究教育それぞれの対応—」

- 話題提供「コロナ禍と大学教育—オンラインの活用方法を中心に—」
事例報告「コロナ禍と高校教育—探究活動「ゆめいくプロジェクト」の取組みを中心に—」
- 2020年12月11日（金）18：30～20：30
- 兵庫県立生野高等学校 100周年記念ルーム
- 30人
- 山田篤（福知山公立大学地域経営学部 教授） 他
- 主催 福知山公立大学北近畿地域連携機構市民学習部、兵庫県立生野高等学校

②「高大連携と探究学習」
—高校と地域をつなぐコーディネーターの存在意義を考える—

- 2021年3月5日（金）18：30～21：00
- 完全オンラインにて実施
- 33人（オンライン）
- 長谷川夕起氏（京都府立加悦谷高等学校・宮津天橋高等学校加悦谷学舎 高校魅力化コーディネーター）、能勢ゆき氏（京丹後市役所政策企画課所属 地域おこし協力隊員「高校生と地域を繋ぐ架け橋となるコーディネーター）、中島英樹氏（兵庫県立和田山高等学校地域コーディネーター）、篠原諒太氏（兵庫県立生野高等学校地域教育コーディネーター）
- 主催 福知山公立大学北近畿地域連携機構市民学習部

〔概要・趣旨〕

北近畿地域における高大共通の教育課題について高校教員と大学教員とが共に検討し、教育実践の改善を図る研究プラットフォームの構築をめざすことを趣旨として開催しました。

〔詳細・内容〕

【第1回研究会】

2020年12月11日（金）に兵庫県立生野高等学校100周年記念ルームを会場として、2020年度第1回高大連携研究会を開催しました。今回は兵庫県側から県立村岡高校、和田山高校、柏原高校、生野高校、朝来市（生野支所）、京都府側からも京都府教育委員会、宮津天橋高校、鳥羽高校、福知山市議会等から30人の参加がありました。

本学北近畿地域連携機構市民学習部の杉岡秀紀部長の開会挨拶の後、「コロナ禍と高校・大学—オンラインの活用方法を中心に—」をテーマに、本学の教務委員長でもある山田篤教授と生野高校主幹教諭の松原正和先生からそれぞれ事例報告がありました。コロナ禍で従来通りの授業の実施が難しい中、大学と高校でそれぞれどのような取り組みをしているかについて、各校の具体的な取り組み事例が報告されました。

その後は、参加者全員で感想の共有と質問作りのワークショップを行い、全体討議の後、本学の江上直樹助教による講評、共催校である生野高校の大塚幹典教頭による閉会挨拶があり、閉会しました。

アンケートからも 95%が満足度（満足 68%、やや満足 27%）と高い評価を得られました。

【第2回研究会】

第2回高大連携研究会を2021年3月5日（金）にオンラインで開催し、高校、大学、京都府教育委員会、綾部市等から33人の参加がありました。

第2回は北近畿地域連携機構市民学習部委員であり教務委員長でもある山田教授の開会挨拶の後、「高校と地域をつなぐコーディネーターの存在意義を考える」をテーマに、北近畿で地域と高校をつなぐ活動をされている京都府立加悦谷高等学校・宮津天橋高等学校加悦谷学舎高校魅力化コーディネーターの長谷川夕起氏、京丹後市役所政策企画課所属地域おこし協力隊員「高校生と地域を繋ぐ架け橋となるコーディネーター」の能勢ゆき氏、兵庫県立和田山高等学校地域コーディネーターの中島英樹氏、兵庫県立生野高等学校地域教育コーディネーターの篠原諒太氏の4人の方にパネリストとしてご参加いただき、北近畿地域連携機構市民学習部の杉岡秀紀部長をパネルコーディネーターとしてパネルディスカッションを行いました。

その後、参加者を4つのグループに分け、4人のパネリストの方が各グループのファシリテーターとなってグループワークを行いました。最後に、各グループの討議内容を全体報告した後、本学の大谷杏准教授が総評し、閉会しました。今回はオンラインのみでの開催でしたが、活発な意見交換が行われ盛況のうちに終わりました。

アンケートからも 85.7%が満足度（満足 66.7%、やや満足 19%）と高い評価を得られました。



2020年度 地域研究協働型ゼミナール事業 (リビングラボ創出事業)

【概要・趣旨】

本事業は、地域課題をテーマにしたリビングラボ*を、実践的かつ創造的な学びの場として位置づけ、ステークホルダーの学び直しを実現するものです。

今年度は、昨年度までの試行的な取り組みによる成果を踏まえ、学内教員を主な対象にした公募(2020年11月)を実施し、地域課題をテーマにしたリビングラボの運営を行いました。

今年度の採択課題は1件で、夕日ヶ浦観光協会・京丹後市観光公社を連携先にした「夕日ヶ浦エリアの地域ブランディング推進事業に向けた戦略立案プロジェクト」(代表者：地域経営学部助教 佐藤 充)でした。

*リビングラボとは

地域住民、企業、行政、大学をはじめとした多様なステークホルダーが集い、新たな製品・サービスの創出を生み出す場のことを指します。

【詳細・内容】

○採択課題

「夕日ヶ浦エリアの地域ブランディング推進事業に向けた戦略立案プロジェクト」

代表者：地域経営学部助教 佐藤 充

連携先：夕日ヶ浦観光協会(松本 将輝)・京丹後市観光公社(楠本 和人・宇野 祥子)

【プロジェクトの概要】

本プロジェクトは、佐藤助教が、夕日ヶ浦観光協会の誘客推進委員会(旧：インバウンド部会)に参画し、京丹後市観光公社(海の京都 DMO 京丹後地域本部)、海の京都 DMO 総合企画局、京都府本庁(企画参事付)と連携し、通年型観光の実現を目指した地域のブランド化事業を推し進めるものです。

【プロジェクトの実施報告】

2019年7月から、佐藤助教が夕日ヶ浦観光協会の誘客推進委員会の議論に、ファシリテーター及び有識者として参加し、月1～2回程度の頻度で、地域全体のブランディングに関する事業を企画・実施しています。

本事業の採択までに、同委員会では、データ分析や地域ブランディングに関する学習会を開催し、QRコードを活用した調査票の作成・実施、ブランドコンセプトの策定、各種事業の実施計画の策定が行われてきました。その成果として、2020年度には、ナイトタイムのイベント実施、体験型コンテンツの造成を実現するに至りました。

本事業の採択後、下記のとおり議論の場が設けられ、①夕日ヶ浦エリアがターゲットとする若年層を対象にしたWeb調査の実施、②次年度の各種事業の計画策定が行われ、夕日ヶ浦の地域ブランディングに向けた戦略が議論されました。

2021年1月18日	1月度委員会（Zoom形式）
2021年2月9日	2月度委員会（Zoom形式）
2021年2月22日～23日	Web調査の実施
2021年3月9日	3月度委員会（対面形式）

<Web会議の様子（2021年2月9日）>



<Web調査の概要>

Survey: 福知山公立大学_京阪神圏における若者世代の国内旅行に関する意識調査 (p2034837203)

「京阪神圏における若者世代の国内旅行に関する意識調査」について

現在、福知山公立大学地域経営学部（京都府）の佐藤亮研究室では、北近畿地域における観光地域づくりをテーマにして、フィールドワークや調査研究を行っています。特に、京都府の北部に位置する京丹後市・夕日ヶ浦温泉と伊根町を対象にして、観光振興に向けた取り組みを展開しています。

こうしたなかで、昨年が発生した新型コロナウイルス感染症の流行拡大は、旅行者の動向に多大な影響を与えました。旅行に関する調査レポートをみると、国内外を問わず、マイクロツーリズム（近距離の訪問地への旅行）への関心が強まり、若者世代（20～30代）の旅行実施意向が高まっている点が指摘されています。

そこで、本調査は、京阪神地域の若者世代の方々を対象にして、国内旅行の実施意向、国内旅行に関する考え方、そして、北近畿エリアへの旅行について、それぞれお尋ねします。これらの回答から、若者世代の旅行に対する意向や意識を明らかにするとともに、北近畿エリアの観光振興に向けた提案を検討していきます。

本調査の回答時間は、約10～15分程度になります。

なお、本調査の実施にあたっては、京丹後市観光公社及び夕日ヶ浦観光協会の協力を受けております。

なにとぞ、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

■市民学習部

福知山公立大学 子ども・若者学び支援事業

オンライン子育て支援サロンクリスマス会～

福知山公立大学のおにいさん おねえさんといっしょにあそぼう！～

- 2020年12月19日(土) 15:00～16:30
- オンライン開催
- 3組(7人)
- 担当教員 川島典子(福知山公立大学地域経営学部 教授)
- 主催/共催 福知山公立大学北近畿地域連携機構 市民学習部

〔概要・趣旨〕

コロナ渦のなか、閉じこもりがちな親子のためにオンラインで開催した子育て支援サロンです。対象は、就学前児童を育てる保護者の皆様方と、その子どもたちでした。学生や職員のボランティアによるサンタさん、トナカイさんと一緒にクリスマスソングを歌ったり、サンタさんに絵本の読み聞かせをしてもらったり、トナカイさんと一緒に折り紙をしたりしました。

参加した子どもたちは、ZOOMの画面にサンタさんが登場すると歓声をあげ、歌を歌う時にはリズムに合わせて体をゆらしたりして、楽しそうにしていました。今後も継続して子育て支援サロンを開催し、地域の保護者の皆様方の子育支援に貢献していく活動を行っていく予定です。

〔詳細・内容〕

「子ども・若者学び支援」として、今年度は、「オンライン子育て支援サロン～福知山公立大学のおにいさんおねえさんといっしょにあそぼう～」と銘打って、就学前児童を育てる保護者とその子どもたちのためのオンラインクリスマス会を2020年12月19日土曜日15時～16時半まで開催しました。

プログラムは、以下のとおりです。

プログラム	備考(内容等)
はじめのことば	福知山公立大学地域経営学部教授 川島典子
クリスマスソングを歌おう♪	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスソングを歌おう ・シングルベル ・真っ赤なお鼻のトナカイさん ・サンタがまちにやってくる ・きよしこの夜 など
サンタさんが絵本をよんでくれるよ	<ul style="list-style-type: none"> ・サンタさんのおとしもの ・ぼうしくんのクリスマスプレゼント
トナカイさんと折り紙を折ろう！	<ul style="list-style-type: none"> ・サンタクロースの折り紙 ・新聞紙を使ったごみ箱
おわりのことば	福知山公立大学地域経営学部教授 川島典子

クリスマスソングを歌おう！のコーナーでは、川島の歌に合わせてボランティアの学生たちが、鈴やタンバリンを叩いたり、キャンドルに火を灯したりしました。最後に歌った「きよしこのよる」では、アカペラコーラスのメンバーにも合唱に参加してもらいました。その後、アカペラコーラスのメンバーは、ミーシャの「エブリシング」を披露しています。子どもたちは、歌に合わせて、体をゆらして一緒に歌っていました。

サンタさんが絵本を読んでくれるよ！のコーナーでは、職員の扮するサンタさんが絵本を二冊朗読しました。サンタさんが画面に現れると、子どもたちは手を振って、大喜び。サンタさんの迫真の演技は、おかあさん、おとうさんたちにも、とても評判がよかったようです。

トナカイさん役のボランティアの学生が、サンタや、ごみ箱を折り紙と新聞紙で折るコーナーでも、画面のむこうの子どもたちは、一緒に折り紙をしてくれました。このトナカイ君の演技も素晴らしく、歌を歌うコーナーでも歌に合わせて一緒に踊ってくれました。

また、折り紙の折り方を提示した模造紙1枚の飾りを作成してくれた学生もいます。会場の飾りつけも学生たちが行ってくれました。

残念ながら、今年度は初年度であったこともあり、参加者は決して多くはなかったのですが、来年度はチラシを置く場所を工夫したり、今年度お知らせ記事を掲載して頂いた両丹日日新聞の他、各種メディアで宣伝してもらおうなどして、より広報活動に努めようと思います。また、会場を大学から市中のNPO法人「おひさまと風のクラブ」に移すなどの工夫も必要だと考えています。

いずれにしても、合計特殊出生率が2.02で、本州3位、京都府1位の福知山市には、若い世代の移住者が多く、核家族で子育てをしている若い夫婦が多いことが推察されます。そういった若いおかあさんや、おとうさんが孤立せず、楽しく子育てできる環境を地域の重要な社会資源である大学として提供し続け、住民の皆様方と協働しながら今後より一層、地域に貢献できる子育て支援事業、若者支援事業を行っていければと思います。



■市民学習部

福知山公立大学公開講座 井口学長塾 第Ⅳ期

「福知山町の近代史」

■2020年10月17日（土）～2020年12月12日（土）（全5回）

■第1回 吹風舎とZoomによるオンラインの併用

■第2回～5回 福知山公立大学2号館1階「Kita-re」Co-Lab.スペースとZoomによるオンラインの併用

■第1回21人、第2回26人、第3回17人、第4回25人、第5回23人

■井口和起（福知山公立大学 学長）

〔概要・趣旨〕

事業の目的に「未来を切り拓く地域の近現代史をみんなで発見しよう」を掲げましたが、2020年度のテーマは「福知山市の近代史」としました。しかし、コロナ禍の中で、通常の学習会を開催できず、ZOOM参加も併用しました。そのため、参加者からの資料提供も困難だったので、「軍都：福知山の形成」と題して、帝国在郷軍人会編『歩兵第二十聯隊史』（1931）と稿本『明治卅七八年戦史：惇明尋常高等小学校』（惇明小学校所蔵）を井口が中心となって読み進め、住民が「軍都」であることを初めて実体験をした時期の福知山町の近代史を学習しました。

〔詳細・内容〕

第1回（2020.10.17）は、1898年、福知山に陸軍歩兵第二十聯隊司令部が置かれる経緯をテーマにしました。『福知山市史』第4巻にも書かれていますが、『歩兵第二十聯隊史』の記述を素材に、1884年の歩兵二十聯隊創設や日清戦争後軍備大拡張が何故行われたのかを当時の日本の軍備拡張政策全体の中で知ること、新たな聯隊や師団の増設はどんな仕方で行われるのかなどを主題としました。

第2回（2020.10.31）から最終の第5回（2020.12.12）までの4回は、今回の中心史料である稿本『明治卅七八年戦史：惇明尋常高等小学校』（惇明小学校所蔵）を読み進めました。

この史料は、福知山市が2016～18年にかけて行われた「福知山市小・中学校保管歴史資料悉皆調査事業」の中で所在を確認され、写真撮影されたものの一つです。市の文化財保存担当の方に教えられ、公開と翻刻作業については所蔵されている惇明小学校の校長先生のご了解も得てこの学習会で採り上げさせていただきました。

どんなことが記録されていたかをここで詳しく紹介することは到底できませんが、簡単にいくつか紹介しておきます。

一つは、軍隊出征の見送りです。1904年5月4・5日の聯隊本隊の見送りに始まり、翌年9月1日まで、計51回の見送りをしています。なにより大きな負担となったと思われるのは、軍隊への宿舎の提供です。第1回目が最も多く、提供家屋は総計378戸、4月19日から5月5日（本隊出征の日）の17日間に、延べ27,743人の軍人が宿泊しています。その後、戦争が終わって凱旋してくる軍隊への宿泊家屋提供は1906年3月29日まで、計5回でした。布団や枕も提供します。銭湯にも兵士たちが入ります。第1回目の入浴者数は延べ11,948人で、兵隊は入る時間帯には町民は入れません。当時の福知山町の戸数はおよそ1,800～1,900戸、人口は6,200人ほどですから、戦時下で町の様子が激変していることがうかがえます。

一方、こんな戦時下でも町は水害に見舞われています。1904年9月16日の豪雨で町の中心部の一部を除いて浸水被害に見舞われ、御霊神社で炊き出しが行われたことも記されています。

『福知山市史』第4巻では、日露戦争のことは、歩兵第二十聯隊の戦地での戦闘のことしか書かれていませんが、私たちは戦時下の町の様子をかなり詳しく知ることが出来たのではないかと思います。この町の様子は、戦争が始まると聯隊司令部所在地の町民はどういう状態に直面するかを示したものです。その意味で、日露戦争で福知山町民は「軍都」であることを本格的に初めて体験したと言えると思いました。

この史料の中心部分を翻刻して確認したの最終回でしたが、全体の翻刻・紹介は井口が大学の紀要にでも掲載しようと考えています。

なお、全体の参加者数は、ZOOM参加者も含めて次のとおりでした。

第1回(10月17日):吹風舎で21人、第2回(10月31日):大学キターレのコラボスペース(以下同じ会場)で26人、第3回(11月14日)17人、第4回(11月28日)25人、第5回(12月12日)23人。



福知山公立大学 2020 地域活性化策コンテスト 田舎力甲子園

■担当教員 中尾誠二（福知山公立大学地域経営学部 教授）

■主催 福知山公立大学「田舎力甲子園」実行委員会
福知山公立大学北近畿地域連携機構 市民学習部

■後援 内閣府地方創生推進事務局、京都府、福知山市

〔概要・趣旨〕

本学の位置する北近畿エリアをはじめ、日本全国の地方都市・農山漁村は何処も少子高齢化や地域経済の活力低下という問題に直面していますが、これら諸課題に対する解決策の一つとして「田舎の持つ内発的発展力」が注目されています。そこで「田舎力甲子園」と題して全国の高校生から地域活性化策のアイデアを募集し、優秀策を表彰することによって、広く啓発・普及を行いました。

なお、例年は表彰式を夏のオープンキャンパス時に開催していますが、今年度は COVID-19 の影響で冬まで延期しました。具体的には 2020 年 10 月 30 日〆切で応募（個人 46+グループ 96=計 142 策）を受理、11 月 16 日に審査結果（表彰 19 策）の発表、12 月 12 日（土）に zoom 上で表彰式（参加者 100 人）を行いました。表彰式では、zoom のブレイクアウト機能を用いて、高校生と大学生の交流も初めて実施しました。

〔詳細・内容〕

表彰 19 策は以下のとおりです。

表彰校		
賞	受賞校	研究課題名
最優秀賞	奈良県立 奈良情報商業高等学校	桜井をもっとメジャーに!!2 ～地域と繋がる。今だからこそできること～
優秀賞	日星高等学校	I♥MAIZURU ～コロナ禍のジョブシャドウイングで考えた、私たちに出来る地域貢献～
佳作	利根沼田学校組合立 利根商業高等学校	Let's enjoy with MINAKAMI ～観光で地域活性に挑む～
佳作	兵庫県立豊岡高等学校	アートと農業で創る住みたい町づくり
佳作	岡山県立新見高等学校	レジ袋0のまちへ ～海のない新見市を、海の環境に配慮したまちにするための挑戦～
佳作	金光学園…他 5 校	伝統文化のバトンを受け継ぐ高校生の実践記録
佳作	香川県立観音寺第一高等学校	心も体もリフレッシュ！高生産性ワーケーションはいかがですか？～「観音寺市のリソース」×「新しい生活様式」で地域を復活させたいっ!!～ Refresh your mind and body! How about high productivity workation?
佳作	長崎県立宇久高等学校	探究活動「Uku Labo」第2学年・第3学年の取り組み

表彰校		
賞	受賞校	研究課題名
佳作	大口明光学園高等学校	おじゃったもんせ！伊佐米♡石窯ピザ♡キャンプ
奨励賞	北海道標茶高等学校	標茶町の魅力を高校生視点で！～町をどんどん活性化・発信！標茶町～
奨励賞	山梨県立甲府第一高等学校	TANADA! - Restoration of "YUI community" by utilizing the benefits of Tanada in Kai City and Research for regional revitalization
奨励賞	岐阜県立飛騨高山高等学校	飛騨桃のニューフェイス「飛騨おとめ」で地域を元気に！～飛騨地域の果樹生産における商品開発と情報発信～
奨励賞	静岡県立川根高等学校	コロナ禍における高校生の避難所運営による地域活性化策～車イスの高齢者が使いやすい避難所トイレの開発
奨励賞	愛知県立杏和高等学校	銀杏をもっと愛される名産にー銀杏を活用した地域活性化ー
奨励賞	兵庫県立宝塚北高等学校	めざせ！有馬温泉水で育てた野菜の地域ブランド化
奨励賞	鳥取県立米子東高等学校	星取県で Happy Wedding ～アフターコロナの時代を見据えたこれからの観光戦略～
奨励賞	島根県立出雲高等学校	日御碕の観光価値を見直し、出雲市の観光客を増やす
奨励賞	愛媛県立丹原高等学校	地域資源を活用した地域活性化に向けた取組～放置竹林問題解決と竹の有効活用について～
奨励賞	長崎県立中五島高等学校	チルドレン☆スペース～室内で遊べる施設を提供しよう～



まちかどギャラリー事業

■担当教職員：

渡邊扇之介（福知山公立大学情報学部 准教授）

張明軍（福知山公立大学地域経営学部 助教）

賀田秀樹、廣地聖史、大槻啓子（福知山公立大学北近畿地域連携機構 職員）

〔概要・趣旨〕

本事業は福知山で活躍するアーティストを招き、大学と地域の交流の場を福知山公立大学サテライトキャンパス「吹風舎」に設けることを目的としています。アーティスト・教職員・学生・地域の方々を巻き込んだ企画の提案・実行を行い、様々な視点からの意見や価値観を共有することで、吹風舎が「成長の場」となることを目指しました。

〔詳細・内容〕

本事業今年度、以下の2つを企画しました。

1. オンライン展覧会「KISAKU 画」

福知山市大江町で活躍されたアーティストの大垣喜作（おおがきささく）氏の絵画を吹風舎に展示しました。また、展示した作品と大江町の様々な場所に飾られている作品の画像をもとに、大垣氏と同じく大江町出身のアーティストの新井厚子氏と本学の学生との対談を収録し、YouTube や本学のHP へのアップロードを行うという企画を立てました。2020年7月から10月まで、進行の台本作成、現場に展示されていない作品の画像のパネル化、広報用のチラシの作成（図1）、学生や新井氏との綿密な打合せなど、多くの時間を使って準備を行いました。収録当日（2020年10月15日）に様々なアクシデントがあり、本企画は結果的には展覧会を行うことの実施となりました。展覧会は2020年4月から12月まで開催しました。



【図1. オンライン展覧会「KISAKU 画」チラシ】

2. 地域アート「こころあ大旅行」

2020年10月から12月に新町商店街のシンマチサイトで開催された、新井厚子氏の展覧会「こころあ大旅行 imaginary Cartography」と連携し、新井氏と福知山公立大学の学生との協働で地域の魅力を再発見する参加型アートプロジェクトを企画しました。福知山市在住外国人市民を含め、外国人と本学の学生と新井氏が福知山の町を巡り、海外に見える風景を撮影して周ることで、世界旅行に行ったような作品を作成するという企画です。さらに作成した作品について、新井氏と対談



【KISAKU展 展示風景】

を行い、その様子を収録、インターネット上で公開することにしました。しかし、2020年11月から外国人の手配や学生の募集、企画の打合せを行う中、2020年12月以降の新型コロナウイルス感染拡大の第2波により、企画を見合わせる事となり、最終的には企画の中止に至りました。

まちライブラリー事業

■担当教職員：

藤島光雄（福知山公立大学地域経営学部 教授）

大谷杏（福知山公立大学地域経営学部 准教授）

衣川昌宏（福知山公立大学情報学部 准教授）〔オンライン担当〕

足立斉、廣地聖史、大槻啓子（福知山公立大学北近畿地域連携機構 職員）

〔概要・趣旨〕

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、対面のイベントを断念し、代わりに2つのオンラインイベントを開催しました。第1回は令和2年10月2日に行われた「今読んで欲しい1冊～次回、ビブリオバトルに向けて～」であり、第2回は令和3年2月5日に開かれた「明智光秀オンラインブックトーク」です。いずれも配信は吹風舎から行いました。

なお、第1回はまちライブラリー事業の単独開催でしたが、第2回は主催を「福知山市立図書館、福知山公立大学まちかどキャンパス部」とし、福知山市立図書館協力のもと、イベントを開催しました。オンラインの利点を生かし、視聴者には吹風舎やまちライブラリー事業のみならず、福知山に関心を持っていただくことを目指しました。

〔詳細・内容〕

本事業は今年度、以下の2つを企画しました。

1. 今読んで欲しい1冊～次回、ビブリオバトルに向けて～

開催日時：2020年10月2日（金） 19：00～20：00

配信場所・配信方法：吹風舎・Zoom

5人の登壇者（教員3人、学生2人）に、新入生を想定し各自選定した「今読んで欲しい1冊」を約10分間で紹介していただくイベントを開催しました。

当日は、藤島教授の開会挨拶に始まり、井口和起本学学長（田中仁『ボクらの村にも戦争があった～学校日誌でみる昭和の戦争時代～』図書出版文理閣、2012年）、岡本悦司地域経営学部長（渡辺昇一『ドイツ参謀本部』中公新書、1974年）、衣川昌宏准教授（鈴木孝『20世紀のエンジン史—スリーブバルブと航空ディーゼルの興亡』三樹書房、2001年）、本学学生藤縄力也さん（小和田哲男監修『明智光秀の生涯と丹波福知山』福知山市役所、2017年）、成瀬花音さん（藤巻幸夫『自分ブランドの教科書』インデックス・コミュニケーションズ、2007年）にそれぞれ約10分間の書籍を紹介いただき、大谷准教授の閉会挨拶で終了しました。

広報については、チラシの配布、Facebookやインスタグラム、大学ホームページ等で行いました。衣川准教授の技術面での全面的なサポートにより、吹風舎からZoomを用いての生中継で配信し、最多時で11人の視聴がありました。反省点として、平日の夜であったことから、ターゲットとしていた学生の参加が少なかったこと、また短期間での広報ゆえに学外からの参加者についても限られていたことが挙げられました。

2. 明智光秀オンラインブックトーク

開催日時：2021年2月5日（金） 18：30～19：30

配信場所・配信方法：吹風舎・ZoomとYouTube Live

第2回目は当初、ビブリオバトルを想定していましたが、部会内から外部機関との共催での実施を求める声が上がったため、以前に類似のイベントを開催した経験を持つ福知山市立図書館に協力を求め、外部の登壇者を紹介していただきました。したがって、主催を「福知山市立図書館、福知山公立大学まちかどキャンパス部」とし、開催しました。なお、登壇者の多くが外部の方に依頼したことにより、ビブリオバトルではなく、ブックトーク形式にて開催しました。

当日は、福知山市立図書館中央館浅田館長の開会挨拶に始まり、芦田精一福知山史談会会長（小和田哲男『明智光秀～つくられた「謀反人」』PHP 研究所、1998年）、小林久三『本能寺の変 捜査報告書～検証・織田信長殺人事件』PHP 研究所、1998年）、八瀬正雄福知山市生涯学習課長（福島克彦『明智光秀―織田政権の司令塔』中公新書、2020年）、佐藤強志、小和田哲男『ぶらり明智光秀の城 & 史跡めぐり』マコト出版、2020年）、福知山市職員・福知山史談会和田直樹会員（村上紀夫『江戸時代の明智光秀』創元社、2020年）、小和田哲男監修、芦田岩男著『明智光秀からの手紙―丹波攻略戦を語る史料―』2020年）、井口和起本学学長（福島慶太『麒麟を呼ぶ 光秀さんに学ぶ福知山のまちづくり』PHP 研究所、2020年）にそれぞれ約10分間で書籍を紹介いただき、大谷准教授の閉会挨拶で終了しました。

広報について、今回は Facebook や Twitter を用いてターゲットとなる層に働きかけたところ、Zoom とメールによる事前申し込みが40件、視聴も YouTube Live と Zoom 最多時で計60人でした。Zoom と YouTube Live を併用したことから生じた、遅れて音が聞こえる現象など、2つの方法を同時に使うことの難しさが課題となりました。次回オンラインイベント開催の際は、配信メディアを1本に絞ることや事前申し込みの必要性、アンケートの回収方法などについて更なる協議を重ね、よりよい事業を企画していきます。



【広報用チラシ】



【当日の配信風景】

まちびとゼミ事業

■担当教職員：

谷口知弘（福知山公立大学地域経営学部 教授）

衣川昌宏（福知山公立大学情報学部 准教授）〔オンライン担当〕

張明軍（福知山公立大学地域経営学部 助教）

足立斉、廣地聖史、大槻啓子（福知山公立大学北近畿地域連携機構 職員）

〔概要・趣旨〕

市民を講師に学びと交流の場を作る【まちびとゼミ】。今年は、念願であった明智光秀を主人公にした大河ドラマ「麒麟がくる」が放映され、明智光秀への関心がより高まっていました。そこで、明智光秀と福知山踊りをテーマに、明智光秀の魅力を感じ、福知山が誇る郷土芸能「福知山踊り」の歴史や魅力を学び、踊りを体験するオンライン講座を開催しました。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため福知山ドッコイセまつりの中止が決定され寂しい思いをされている市民を多いのではと思いました。そこで、オンラインで、福知山音頭を届け、福知山踊りを一緒に踊ることで、福知山踊りやまつりへの関心を来年に繋ぐことができると願いました。

また、全国から集う福知山公立大学の学生が福知山の歴史文化に触れる機会は多ありません。そこで、「明智光秀」や「福知山踊り」をテーマに郷土史や郷土芸能に触れることで、福知山の歴史文化に関心を持ち地域への愛着を醸成するきっかけになることを目指しました。

〔詳細・内容〕

本事業は今年度、以下を企画しました。

「学ぶ！習う！踊る！明智光秀と福知山踊り～明智光秀の魅力と福知山踊り」

開催日時：2020年7月28日（金） 19：00～20：30

配信場所・配信方法：吹風舎公式 Instagram よりライブ配信

＜プログラム＞

1. 感じよう！明智光秀の魅力

市民講師 植村勇輝さん（明智茶屋）

2. 学ぼう！「福知山踊りと福知山ドッコイセまつりの歴史と魅力」

市民講師：福知山踊振興会代表 田村卓巳さん

3. 踊ろう！見て、踊って覚えよう初めて福知山踊り体験

市民講師：植村竹子さん（福知山踊振興会）

念願であった明智光秀を主人公にした大河ドラマ「麒麟がくる」が放映され、明智光秀への関心が高まる中、明智光秀と福知山踊りにフォーカスしました。市民講師には、明智光秀を敬愛し地域資源として新たな価値創造に取り組む明智茶屋の植村勇輝氏と長らく郷土芸能の伝承に取り組まれている福知山踊振興会の田村卓巳氏、植村竹子氏を迎えました。明智光秀の新たな魅力を探り、福知山が誇る郷土芸能「福知山踊り」の歴史や魅力を学び、踊りを体験しました。

まず、明智茶屋の植村勇輝氏が、光秀へ熱い思いを「私の好きな明智光秀トップ10」と題して語ってくださいました。次に、福知山踊振興会会長の田村卓巳氏が、福知山踊りの歴史や活動についてお話しいただき、続いて理事の植村竹子氏の指導で踊り体験を行いました。締め括りは学生・教員も加わって小さな踊りの輪をつくりました。講師の熱気があふれるお話に踊りと、福知山への愛にあふれ

た講座になりました。

今回のまちびとゼミは、コロナ禍におけるまちかどキャンパス部の事業として、初めてオンライン開催を試みました。実施に当たっては、Zoom や YouTube、FaceBook、Instagram 等、さまざまなオンラインメディアでの開催を検討しました。結果、初めての取り組みであることに加えて市民がオンラインイベントを行う際のモデルを提供することも考え、機材や参加申し込みなど準備が最も簡易な方法で試みることにし、公式アカウントを運用していた Instagram でライブ配信しました。当日は、延べ 50 人の視聴があり、録画配信は 2021 年 2 月 25 日時点で 141 件の閲覧となっています。

広報については、チラシの配架は行わず、大学や北近畿地域連携機構、まちかどキャンパス吹風舎の公式サイトや SNS を活用しました。加えて、FaceBook の公開グループで福知山をテーマに集う 1,000 人規模のコミュニティで告知を行いました。当日の視聴者数から見て、SNS 等ネットでの広報のみでありましたが、オンライン開催の場合は効果的であったと考えられます。一方、ネットに接続困難な方の参加も重要であり、今後は広報の方法やオンラインとオフラインのどちらかを選択できるハイブリット型の開催の検討など、より丁寧な準備が求められると考えています。



【広報用チラシ】



【Instagram の配信画面】



【当日の配信風景】

2020年度 福知山公立大学 北近畿地域連携機構
年次報告書
2021年3月 発行

発行 福知山公立大学 北近畿地域連携機構
〒620-0886 京都府福知山市字堀3370
福知山公立大学2号館1階
TEL:0773-24-7151 FAX:0773-24-7152
E-mail: kita-re@fukuchiyama.ac.jp
印刷所 株式会社タカギ印刷

何 だ い

度 れ つ

で で で

も も も





 福知山公立大学

Kita-re

北近畿地域連携機構

〒620-0886 京都府福知山市字堀 3370

TEL 0773-24-7151 FAX 0773-24-7152 Mail kita-re@fukuchiyama.ac.jp

<https://www.fukuchiyama.ac.jp>